

「努力賞」の新設について

平成26年より「努力賞」を新設しました。

能面は舞台上で使われて初めて本来の使命を果たす事ができるものです。全国の能面作家の皆様も、能舞台で使われる能面を目指して、日夜努力をされている事と存じます。

しかし、「能舞台で使える能面」と一口に言っても非常に難しいものがあります、「能舞台で使える」とは何か？面打ちの方々にはたえず苦悩している課題でしょう。能楽師からは、応募作品の多くは能面の性格や特徴のつかみ方・使われ方や舞台上で要求される表情の理解不足、また能舞台を実際に見ていない事による誤解などがあるのではとされています。島熊山能面祭はこの課題に応えるため7名の能楽師の協力を得て応募された個々の作品を審査するだけでなく、講評やコメントを付けさせていただき、これを参考に面打ちの皆様がさらに技術を高められ、平成の名作を是非作っていただきたいと考えています。

島熊山能面祭の審査は7名の能楽師のみで行っています。

審査員は応募された能面を全て手に取り、時には顔に着け、表情・彫り・彩色・裏の当りなど慎重に総合的に検討し、「能舞台で使えるか？」を基準に審査して、数を制限せず、基準に合うものを入選としてきました。その結果、現在のところ入選数も少なく応募者からも、島熊山能面祭は審査が厳しすぎる、もっと入選数を多くして希望を与えて欲しいという声も聞かれます。

審査中の能楽師からも「非常においしい作品だ」例えば「彩色を少し変えれば」「目の表情を少し強くすれば」「目の方向を変えれば」「裏面の当りを直せば」等々、「基準からすれば不合格にせざるを得ないが、少し手を加えれば十分舞台で使える良い作品も少なくな」という声も聞かれます。これらの作品をどのように評価するか？が実行委員会としてたえず議論になっていました。

しかし、入選の基準を引き下げたり、単に入選数を増やしたりすることは、「優れた作品を正当に評価する」姿勢と権威ある能面祭の目的からは外れる事にもなります。

そこで入選の基準は変えることなく今までどおりとし、これまでは一律に「不合格」としてきた作品を「技術的な側面」から再評価を行い「能舞台ではつかえないが制作技術が良い」作品に対して、今年から「努力賞」を実行委員会として評価することにしました。

この賞の審査は、当然、審査委員会の評価に基づき行うものであり、非常においしい作品を対象として選考してゆきたいと考えています。

受賞者の今後の飛躍を期待し、これまでの努力を評し、もうひと努力していただく意味で新たに新設するものです。

平成26年7月15日

島熊山能面祭実行委員会